

まつ まえびょう ぶ
松前屏風

■指定年月日／昭和52年9月12日

■所有・管理者／松前町



『松前屏風』は、龍円齊兒玉貞良りゅうえんさい こだまていりょうによって、宝暦年間(1751～1763)に、松前城下の秋を描いたものと云われている。高さは1.57m、幅は3.65mあり、六曲一ろっ きょくいつ そう双で、『江差屏風』がこれに対になると考えられることから、半双屏風と記されることもある。また、ここに描かれた風景は、約260年前の松前城下であるが、神社・寺町の位置や、商人の蔵が並んでいる地割(道路の配置)は、現在の地割と比較して、ほとんど変わっていないことが判る。また、瓦屋根の建物が多く、これは海岸沿いに商人が集住し、その商品を保管する土蔵と、豪商の邸宅が並んでいたことに起因する。



松前屏風

この屏風は、おたるない 小樽内の場所請負人であった、おう み はちまん 近江八幡の「イチゼンバシ」恵比寿屋岡田弥三右衛門が、松前での出店の繁昌を後世に伝えるために描かせたと考えられ、滋賀県おう み はちまん 近江八幡市の同家に長く保存されていた。当時の松前城下の風俗にいたるまで、様々な情報を伝える貴重な文化財である。